

『季刊戦争責任研究』総目次

創刊号(1993年秋季号)【特集＝「従軍慰安婦」問題を検証する】	
創刊の辞	荒井信一
陸軍中央と『従軍慰安婦』政策	吉見義明
－金原節三「陸軍省業務日誌摘録」を中心に－陸軍の慰安婦管理の一側面	林博史
－「衛生サック」公布資料を手がかりに－「従軍慰安婦」第1次調査	資料センター
＝随想百話＝ 二度目の夏	西野留美子
「従軍慰安婦」補償問題で、新たな報告書作成	荒井信一
－国連人権委、一年以内に日本政府へ勧告－ドイツの戦後処理をめぐって(上)	佐藤健生
－ドイツ現代史における賠償と補償－フィリピンにおける元「従軍慰安婦」調査報告	長田由美
〔資料〕 いわゆる従軍慰安婦問題について(第2次政府調査全文)	

第2号(1993年冬季号)【特集＝731部隊部隊の実相に迫る】

今、なぜ七三一を問わねばならないか	越田稜
日本軍の細菌戦－明らかになった陸軍総がかりの実相－	吉見義明・伊香俊哉
隠蔽と解明と－七三一部隊研究の歴史をたどって－	宮崎章
マレーの細菌戦部隊－北京の細菌戦部隊を含む日本軍秘密部隊の実態－	高島伸欣
七三一部隊とは何か－部隊展実行委パンフが明かす七三一部隊の概要－	
戦後・戦争責任を問う七三一部隊展を開催して	渡辺登
東条首相、自ら本部を視察	
－元七三一隊員が証言する人体実験の戦慄－	
＝エッセー＝ もう一つの春歌考	川田文子
ドイツの戦後処理をめぐって(中)－「国民追悼日」の歴史的意味－	佐藤健生
オランダ、イギリス元捕虜、抑留者の日本政府に対する訴訟提起	新美隆
フランス・レイ「韓国の国際状況」－国際法からみた韓国保護条約無効論－	海野福寿解説

第3号(1994年春季号)【特集＝侵略戦争にみる捕虜虐待・虐殺／突きつけられた「従軍慰安婦」問題】

戦時下の外国人の人権	内海愛子
捕虜問題の基礎的検討	小菅信子
人体実験に使用された連合軍捕虜	田中利幸
＝エッセー＝ 戦争と性	早川紀代
「従軍慰安婦」問題日韓合同研究会の報告	林博史
〔資料〕 オランダ女性慰安婦強制事件に関するバタビア臨時軍法会議判決	解説・新見隆
各国慰安婦の戦後と現在	安原桂子
国会図書館所蔵の戦争体験記・部隊史調査について	資料センター
ドイツの戦後処理をめぐって(下)－「国民追悼日」の歴史的意味－	佐藤健生
国立・戦没者追悼平和祈念館(仮称)は必要か	田中伸尚

第4号(94年夏季号)【特集＝「従軍慰安婦」被害回復についての提言／侵略の傷跡－中国東北の現地調査から】

「従軍慰安婦」制度による犠牲者の被害回復についての提言	資料センター
旧関東軍第四(十五)国境守備隊虎頭要塞の日中共同調査－戦跡考古学研究の立場からの略報－	菊池実・深沢敦仁
毒ガス戦の果てに	尾崎祈美子
－旧日本軍が中国に遺棄した化学兵器－	
シンガポールの日本軍慰安所	林博史
〔資料〕 日本占領下蘭領インドにおけるオランダ人女性に対する強制売春に関するオランダ政府調査報告	(解説・吉見義明／翻訳・安原桂子)
台湾マルク債券問題	小林英夫
「日本の戦後処理問題に関するピョンヤン国際シンポジウム」について	糟谷政和
永野発言に関して日本政府への要望	資料センター

第5号(94年秋季号)【特集＝毒ガス・細菌戦の新資料／戦争体験記にみる「従軍慰安婦」】

日本軍はどのぐらい毒ガスを生産したか	吉見義明
細菌戦とネズミ生産	遠藤光司・関口竜一
国会図書館所蔵の戦争体験記・部隊史の第二次調査の報告	資料センター
〔資料構成〕 戦争体験記・部隊史にみる「従軍慰安婦」	林博史
南京大虐殺はどこまで明らかにされたのか	笠原十九司
国連の最近の議論と仲裁裁判所－「従軍慰安婦」問題解決のために－	戸塚悦朗
〔資料紹介〕 「従軍慰安婦」の送付と朝鮮総督府	吉見義明
朝鮮民主主義人民共和国元「慰安婦」の被害報告	西野留美子
中国に残された韓国人「慰安婦」	奥村哲
ある日本人「慰安婦」と永野発言	川田文子
マレー半島の住民虐殺記念碑紹介(上)	清松愛砂

第6号(94年冬季号)【特集＝ドイツにみる戦争責任・戦後責任】

戦争責任・戦後責任にみるドイツと日本	望田幸男
ニュルンベルク裁判の再検討－「人道に対する罪」を中心に－	清水正義
ナチス・ドイツ関係史料公開の現状－ベルリン・ドキュメント・センターを中心に－	芝健介
ドイツの歴史教育	黒田多美子

「忘れられた犠牲者」ーナチ時代の「安楽死」と断種・不妊手術ー	木畑和子
ヒトラー暗殺未遂事件ー反ナチ抵抗運動と今日のドイツー	山下公子
ドイツ、戦争とナチズムの記念碑・記念館を考える①	南守夫
ドイツの「過去の克服」	佐藤健生
富山県における「労務慰安婦」について	萩野富士夫
対談 映画「シンドラーのリスト」をめぐって	芝健介・斉藤哲
オランダ人「慰安婦」	西野留美子
〔資料〕ビルマ・マンダレーの慰安所規定	林博史
〔資料〕「決戦兵器考案ニ関スル作戦上ノ要望」	伊香俊哉
レイテ湾上陸50周年記念式典参加記	中野聡

第7号(95年春季号)【特集＝外国にみる戦後処理問題／日本の朝鮮植民地支配】

イギリスの戦争と戦争責任意識	佐々木雄太
「記憶の義務」と「忘却の権利」ーフランスの戦後50年と「占領期」ー	剣持久木
イタリアにおける戦後処理	高橋進
朝鮮における皇民化政策	宮田節子
強制連行における企業責任	古庄正
戦時下の朝鮮農民ー離村を中心にー	樋口雄一
戦争責任をめぐる日米ギャップ	油井大三郎
ドイツ、戦争とナチズムの記念碑・記念館を考える②	南守夫
エッセイ『ショア』を見ることの意味	石田靖夫
マレー半島東海岸の華人追悼碑	関口童一
雲南省・戦争の傷跡を辿って	望月睦幸
〔資料〕主計将校と「従軍慰安婦」	資料センター
〔資料〕「森川部隊特種慰安業務ニ関スル規定」	松野誠也
〔資料〕七三一部隊と戦犯免責	太田昌克

第8号(95年夏季号)【特集＝十五年戦争の諸相】

天皇の軍隊の特質ー残虐行為の歴史的背景ー	額綱厚
昭和天皇の戦争指導ー情報集中と作戦関与ー	山田朗
アジア太平洋戦争の開戦手続き	岡部牧夫
財閥企業の戦争責任ーアヘンと毒ガスー三井物産と三井鉱山ー	坂本雅子
中国民衆にとっての日中戦争	石島紀之
誰の死を忘れ誰の死をどう意味づけるか	石田雄
ドイツ、戦争とナチズムの記念碑・記念館を考える③	南守夫
シベリア抑留問題の現状と課題	江口十四一
戦没者刻名碑「平和の礎」が意味するもの	石原昌家
雲南省・戦争の傷跡を辿って②	望月睦幸

第9号(95年秋季号)【特集＝日本軍の捕虜政策／中国侵略と戦後補償】

近代日本の戦争ー捕虜政策を中心としてー	神田文人
日中戦争における捕虜虐殺	藤原彰
兵士の陣中日記にみる南京大虐殺	小野賢二
アジア太平洋戦争期の捕虜政策	永井均
連続ゼミナール	
日本の中国侵略と補償問題	姫田光義
中国からの戦後補償要求	渡辺春巳
在米中国人の賠償請求運動	西村成雄
戦後50年国際平和アピールの反響	戦後50年国際平和アピール日本委員会
ドイツ、戦争とナチズムの記念碑・記念館を考える④	南守夫
国会図書館等所蔵の戦争体験記・部隊史の第3次調査の報告	日本の戦争責任資料センター
北京甲1855部隊の検証	西野留美子

第10号(95年冬季号)【特集＝戦後補償・賠償問題】

戦後補償裁判の現状と課題	藍谷邦雄
日本の戦後賠償	小林英夫
中国国民政府の対日賠償政策	殷燕軍
マレーシア、シンガポールの賠償問題	原不二夫
ミクロネシアと日本 終わらない戦後一行われていない戦時賠償ー	荒川俊児
治安維持法と国家賠償	大日方純夫
連続ゼミナール	
スミソニアン原爆展論争から学ぶこと	袖井林二郎
「従軍慰安婦問題」ーリンダ・チャベス氏報告	翻訳・解説／荒井信一
海外における買春の展開ー台湾を中心にー	早川紀代
〔資料紹介〕アンダマン島の日本海軍「慰安所利用内規」	木村宏一郎
元一六四四部隊員の証言ー軍画兵、石田甚太郎の体験からー	水谷尚子

第11号(96年春季号)【特集＝世界は戦後五〇年をどのように迎えたか】

「戦争責任否定派」の動向と論理	波田永実
崩せなかった二重基準の壁	上杉 聡

ーアジアへの補償を求める市民運動からー	
ドイツの現在	佐藤健生
戦後五〇年目の戦争認識	門奈直樹
ー英国マスメディアの対日“戦勝”報道ー	
「戦勝五〇周年」と「戦後五〇年」	岡本公一
中国は戦後五〇年をどうむかえたか	井上久士
解放五〇年をむかえた韓国	石坂浩一
戦後五〇年とフィリピン	中野 聡
「天皇の軍隊」の歴史と本質	藤原 彰
ドイツ、戦争とナチズムの記念碑・記念館を考える (5)	南 守男
日本軍政下のスカブミで起こったこと	川田文子
裁かれなかった石井部隊 パート1ー日米取引の二重構造ー	西里扶南子
〔書評〕荒井信一著『戦争責任論ー現代史からの問い』	岡部牧夫

第12号(96年夏季号)【特集＝韓国併合合法論をめぐって】

韓国併合の歴史的位	中塚明
第二次日韓協約の形式について	荒井信一
韓国側から見た「日韓併合」	姜昌一
「韓国併合条約」無効論をめぐって	海野福寿
国連人権委員会 クマラスワミ報告を採択	上杉聰
日本ファシズムと病者・障害者	藤野豊
中国人強制連行シンポジウムへ	老田裕美
花岡事件裁判の経過と現状	新美隆
日本軍遺棄毒ガス弾問題	吉見義明
中国侵略日本軍が敦化に遺棄した毒弾およびその処理	王義傑・王仁学・陳延生
〔書評〕吉田裕著『日本人の戦争観』	清水正義

第13号(96年秋季号)【特集＝韓国併合合法論をめぐって】

中国戦線における日本軍の性犯罪	筈原十九司
ヴェトナム戦争におけるアメリカ軍の残虐行為と性犯罪	生井英考
生井さんの報告を聞いて	川田文子
軍隊と性暴力過去から現在へ	西野留美子
国民基金の支給をめぐって	上杉聰
撫順炭鉱中国人労働者の大量死	上羽修
戦後世代の戦争責任をめぐって	田口裕史
〔資料〕日本警察の「慰安婦」政策 (連載)	吉見義明・尹明淑
〔資料〕日本軍の化学兵器補給量と使用量	松野誠也
〔資料〕七三一部隊と奉天捕虜収容所	松村高夫

第14号(96年冬季号)【特集＝資料公開・戦争展示を考える】

公文書の焼却と隠蔽	吉田裕
イタリア軍の毒ガス作戦	ズバラグリ・マルコ
長崎原爆資料館の「加害」展示問題	鎌田定夫
戦争と平和の史料について	原田敬一
毒ガス展のめざすもの	手塚愛一郎
まかりとおる「戦争被害受認義務」論	平湯真人
英軍による日本軍性暴力の追及	林博史
ドイツ、戦争とナチズムの記念碑・記念館を考える (7)	南守夫
〔資料〕日本警察の「慰安婦」政策 (連載)	吉見義明・尹明淑

第15号(97年春季号)【特集＝「自由主義史観」批判(1)】

近現代史教育「改革」運動の問題点 (連載)	高嶋伸欣
逸脱する「授業研究」	今野日出晴
中学生が望む歴史教育とは	宮崎章
中国人「慰安婦」訴訟	大森典子
中国人元「慰安婦」の証言	林博史解説
「記憶の暗殺者たち」と討論して	上杉聰
戦時下の民間抑留者	林博史・内海愛子
一六四四部隊の組織と活動 (連載)	水谷尚子
開廷50年後の東京裁判研究	永井均

第16号(97年夏季号)【特集＝「自由主義史観」批判(2)／戦後補償裁判の現状】

加害学習と日本近代史の選択肢	目良誠二郎
在日韓国人元軍属の戦後補償	丹羽雅雄
富山・不二越強制連行訴訟判決について	山田博
上敷香国家賠償請求訴訟の経緯と判決	富田信男
援護法傷害年金支給拒否決定取消訴訟の経緯と判決の問題性について	金敬得
南京事件・ラーベ報告書	片岡哲史訳
インドネシアの日本軍「慰安婦」調査	押川典明訳
台湾人性奴隷被害者のトラウマに関する研究	江美芬

第17号(97年秋季号)【特集＝「自由主義史観」批判(3)／「慰安婦」問題を考える視点】

「自由主義史観」の根底を問う	中村政則
明日の歴史教育に向かって	大畑正弘
「慰安婦」問題の新局面	上杉聰
日本軍の残虐行為と性犯罪	筈原十九司
公娼制とその周辺	早川紀代
元「慰安婦」にみる「複雑性PTSD」	梁澄子
沖縄戦についての援護と国家補償	安仁屋政昭
中華人民共和国の戦犯裁判(連載)	豊田雅幸

第18号(97年冬季号)【特集＝「慰安婦」問題を考える視点(2)】

女性史からみた「慰安婦」問題	藤目ゆき
「慰安婦」問題とフェミニズム	大越愛子
戦場での兵士の「セクシュアリティ」	山本直英
シンポジウム<ナショナリズムと「従軍慰安婦」問題>参加記	杉本由美子
安丸良夫氏にきくー「慰安婦」問題と歴史学ー	
「自由主義史観」の「来歴」	波田永実
ドイツにおける「国防軍論争」	木戸衛一

第19号(98年春季号)【特集＝「慰安婦」問題を考える視点(3)】

国外移送目的誘拐罪の共同正犯一隠されていた大審院判決ー	前田朗
中国人元「慰安婦」の心的外傷とPTSD	桑山紀彦
フェミニズムアートと「慰安婦」ー嶋田美子さんの表現ー	吉村真理子
若者は『ゴーマニズム宣言』をどう読むか	若桑みどり
ヒロシマ・ナガサキと日本の加害責任	吉田一人
ピースおおさかへの右翼の攻撃	小山仁示
裁かれなかった戦争犯罪ーイギリス軍の戦犯捜査記録よりー	林博史
教科書裁判32年ーその判決をどう評価するかー	君島和彦
戦争遺跡保存の意義と課題	大日方悦夫
近現代史教育「改革」運動の問題点(4)	高嶋伸欣
父が語った「731」	神谷則明
「南京1937」(プリンストン大学)参加記	吉田俊
「南京大虐殺60周年東京国際シンポジウム」に参加して	石出みどり

第20号(98年夏季号)【特集＝最近の戦後補償裁判判決】

花岡事件裁判についてー12・10判決批判と法解釈上の論点ー	新美 隆
日本製鉄元徴用工裁判での新日本製鉄との和解について	大口昭彦
<資料> 関釜裁判の山口地裁判決(抄)	
「三光作戦」と北支那方面軍(1)ー抗日根拠地への燼滅掃蕩作戦ー	藤原彰
生体解剖による結核予防法の確立	美馬聰昭
「慰安婦」問題と世界の女性暴力ー「戦争と女性に対する暴力」国際会議報告	西野瑠美子
大坂大空襲についてー戦略爆撃・無差別爆撃ー	小山仁示
核兵器も戦争もない世紀へー「被爆者の自分史」の試みからー	栗原淑江
近現代史教育「改革」運動の問題点(5)	高嶋伸欣
「歴史修正主義」と証言の問題ーヨーロッパの経験ー	鶴飼哲
台湾で開催された「南京大虐殺60周年学術研究会」に参加して	水谷尚子・金丸裕一

第21号(98年秋季号)【特集＝日中戦争時期、中国における日本人の反戦活動】

特集編集前書き	姫田光義
インタビュー記録 中村善太郎(中小路静夫)さん、前田光繁(杉本一夫)さん、藤田豊(古賀初美)さん、王星さん、常化知さん 他	聞き手/姫田光義・堀井弘一郎・水谷尚子
『晋察冀日報』(『抗敵報』)ー日本人反戦同盟関係記事目録	
関釜裁判の経過と判決	山本晴太
映画「プライド」批判	赤澤史朗
横浜教科書訴訟の地裁判決をめぐってー「脱亜入欧」から アジアの一員へー	柴田健
批判 渡辺寛著『南京虐殺と日本軍』ー資料を大量に使用された側からー	小野賢二
「三光作戦」と北支那方面軍(2)ー抗日根拠地への燼滅掃蕩作戦ー	藤原彰
近現代史教育「改革」運動の問題点(6)	高嶋伸欣
「第2回戦争遺跡保存全国シンポジウム」報告	古賀徳子
書評) 林博史著『裁かれた戦争犯罪 イギリスの対日戦犯裁判』	小菅信子
【書評】川田文子編著『授業「従軍慰安婦」』、石出法太・金富子・林博史編著『「日本軍慰安婦」をどう教えるか』	平井敦子

第22号(98年冬季号)【特集＝戦争遺跡からのまなざし】

神奈川の戦争遺跡ーその特徴と保存運動	渡辺賢二
沖縄の戦争遺跡と平和学習	村上有慶
松代大本營の歴史的意義	青木孝寿
戦争遺跡に関する文献紹介	編集部
マクドゥーガル報告書(抄)	国連人権小委員会
戦争責任論からみた現代の南アフリカ	永原陽子
戦争捕虜問題の比較文化的考察(上)ー「食」の問題を中心にー	中尾知代

日本ファシズムと性病—いわゆる「従軍慰安婦」の前提—	藤野豊
韓中首脳の来日と恒久平和議連、そして『戦争論』	上杉聡
近現代史教育「改革」運動の問題点(7)	高嶋伸欣
日本軍「慰安婦」歴史館の開館	池内靖子

第23号(99年春季号)【特集＝「侵略の証言」が提起するもの】

戦犯自筆供述書	新井利男
「三光政策」の戦争犯罪論	前田 朗
中国戦犯供述書にみる日本軍の性暴力	川田文子
戦争遺跡に関する文献紹介	編集部
戦争捕虜問題の比較文化的考察(中)―食の問題を中心に―	中尾知代
『ナショナリズム』と「慰安婦」問題』を読んで―フェミニズムは国民国家を相対化する	早川 紀代
『ナショナリズム』と「慰安婦」問題』を読んで―フェミニズム連帯の可能性	宋 連玉
マスコミの「情報」と学問的「知識」―合衆国における『レイブ・オブ・ナンキン』に対する反響―	井口博充・野崎与志子
<紹介>シンガポールの戦争記念碑―戦後50周年を記念して建てられたもの―	編集・訳 山口剛史
歴史観×メディア＝ウォッチング(1) 懲りない面々と政官の結びつき	高嶋伸欣
バックナンバー紹介	

第24号(99年夏季号)【特集＝「軍隊と性を考える」】

ベトナム戦争から湾岸戦争へ	白井洋子
沖縄の米軍と性犯罪	宮城晴美
シベリア出兵時における日本軍と「からゆきさん」	林 博史
資料 「慰安婦」・強制連行問題 ―ILO 条約勧告適用専門家委員会 1999年報告(抜粋)	訳・中山和久
<連続ゼミ> 南京虐殺はどう語られてきたか ―日・中・米における比較考察―	吉田 俊
<連続ゼミ> セックスワーク論と女性の人権	浅野千恵
海南島における日本海軍の「三光作戦」	藤原 彰
インターネットで見た世界の戦後処理の動き(上) スイスと金塊と休眠口座―	安原佳子
第3回 世界平和博物館会議に出席して	荒井信一
ロームシャになったスカルノ	上杉聡
歴史観×メディア＝ウォッチング(2) 目的のためにはルールも無視する“文化人”たち	高嶋伸欣
過去の克服と日本の文学	岩淵達治 訳・林功三
バックナンバー紹介	

第25号(99年秋季号)【特集＝十五年戦争をめぐる争点】

盧溝橋事件と通州事件の評価をめぐって	江口圭一
真珠湾陰謀説	荒井信一
日米戦争の計画と現実―オレンジ計画と日本の対米作戦計画―	森 茂樹
歴史を改ざんする右派勢力の最近の動向―「新しい歴史教科書をつくる会」を中心に―	俵 義文
国粹主義者批判	岩淵達治 訳・林 功三
戦後史の中の軍刑法	吉田 裕
「昭和館」と私たちの課題―今、なぜ、「昭和館」か―	西川重則
中国山西省 性暴力被害者におけるPTSDの検証 第2次報告	桑山紀彦
日本鋼管訴訟和解とその意味するもの	谷川 透
歴史観×メディア＝ウォッチング(3) 露呈した読売新聞の“産経化”	高嶋伸欣
インターネットで見た世界の戦後処理の動き(下) ナチと保険証書―	安原佳子
エッセイ はじめての証言 スハナさんのこと	川田文子
書評 『シンポジウム―ナショナリズムと「慰安婦」問題』	浅野千恵
書評 『捕虜体験記』	松居竜五

第26号(99年冬季号)【特集＝1 日本軍の化学戦をめぐる争点 2 日本軍の軍紀】

戦争犯罪と免責 ―アメリカはなぜ日本の毒ガス戦追及を中止したか―	吉見義明
敗戦時における化学兵器処理問題―米第八軍化学戦局資料を通して―	大西比呂志
【資料紹介】秘 国土決戦教令	吉田 裕
【資料紹介】沖縄戦における脱走兵について	林 博史
【資料紹介】北支那方面軍司令部「治安維持関係書類集」(抄)	竹内 桂
「民族」か「ジェンダー」か―強いられたい対立 ―『ナショナリズムと「慰安婦」問題』その後―	上野千鶴子
「アジア解放戦争論」の系譜―西尾幹二『国民の歴史』に触れつつ―	上杉 聡
脱ゴーマニズム裁判	高橋謙治
「戦争論―新ゴーマニズム宣言」批判	西成田豊
歴史観×メディア＝ウォッチング(4) 検証『国民の歴史』― やぶへび に至る壮大な失敗作	高嶋伸欣
戦争捕虜問題の比較文化的考察(下)	中尾知代
近代日本の対外出兵正当化の論理	伊香俊哉
「新しい歴史教科書をつくる会」賛同者関係者一覧	俵 義文
西村真悟元防衛政務次官の発言に対する抗議声明	日本の戦争責任資料センター
問題はなにか―岩淵論文について―	林 功三

編集部よりのおわび	吉田 裕
-----------	------

第27号(2000年春季号)【特集＝中国上海・南京の日本軍慰安所】

中国での慰安所現地調査について	林 博史
上海の慰安所・現地調査報告 ー上海に慰安所の記憶と痕跡を訪ねてー	西野瑠美子
南京レイプと南京の慰安所	川田文子
中国人軍隊慰安婦問題に関する研究ノートー上海と南京での研究交流を終えて批判的立場から考えるー	尹 明淑
南京・上海の慰安所と上海派遣軍軍医部ー「渡辺進軍医大尉日記」からー	吉見義明
中国慰安婦調査の現状	蘇 智良・訳／高宏
〈シンポジウム報告集〉「戦争論」から「戦争法」へ	
戦争と戦争のルールの語り方	川本隆史
溢れ出す国家という〈公〉ー揺さぶられる戦後の秩序感覚ー	姜 尚中
国家戦略としての国旗	若桑みどり
脱ゴーマニズム宣言』裁判と『戦争論』批判	上杉 聡
歴史観×メディア＝ウォッチング(5) 無理を重ねる藤岡・産経コンビと『諸君』歴史	高嶋伸欣
秦郁彦の「歴史学」とはなんであるのか？ー『慰安婦問題と戦場の性』に見る手法ー	前田 朗
中国浙江省麗水市における日本軍の細菌戦の概要	手塚愛一郎
日本占領下の海南島における強制労働(1) 強制連行・強制労働の歴史の総体的把握のために	キム チョンミ
歴史クリップボードー靖国偕行文庫オープンー	吉田 裕

第28号(2000年夏季号)【特集＝大学と戦争】

第二次世界大戦と大学	白井 厚
明治学院の戦争責任	小暮修也
名古屋大学の戦争責任ー学生を精神史を中心にー	安川寿之輔
学徒兵の戦争責任をめぐってー日本戦没学生記念会での議論の経過と意味ー	田口裕史
将校への道を拒否した学徒	高崎隆治
アメリカ議会の対日真相究明法案について	荒井信一
「記憶」が持つ普遍の力を信じて	エイブラハム・クーパー
南京の慰安婦と慰安所	経 盛鴻・訳／高 宏
上海での中国「慰安婦」問題国際シンポジウムに参加して	宋 連玉
「女性国際戦犯法廷」をなぜ開くのかーその目的と今日的意義ー	松井やより
「戦争論ー新ゴーマニズム宣言」批判	西成田豊
精神の殺しかたー保守政治が咲かせたあだ花	辛 淑玉
日本占領下の海南島における強制労働 2 ー強制連行・強制労働の歴史の総体的把握のためにー	キム チョンミ
前田朗氏への反論ー「盗用」問題について考えるー	秦 郁彦
歴史観×メディア＝ウォッチング(6) くり返される藤岡・西尾コンビの矛盾隠し	高嶋伸欣

第29号(2000年秋季号)【特集＝検証『国民の歴史』】

中学校歴史教科書との間	今野日出晴
近代史からの解析	大日方純夫
教科書国際交流の経験から見た『国民の歴史』	君島和彦
「神州不滅」本土決戦の実態ー戦争指導者の戦中と戦後の無責任ー	塚崎昌之
アメリカにおける強制労働集団訴訟 ー請求権放棄とサンフランシスコ平和条約ー	荒井信一
葬られた国際戦犯法廷 ー連合国防争犯罪委員会の資料よりー	林 博史
朝鮮人徴用労働者・軍人・軍属の未払い賃金・俸給額を試算する	古庄 正・谷川 透
ピースおおさかをめぐる攻防	空野佳弘
八重山平和祈念館展示資料改ざん問題	鈴木光次郎
書評『南京事件の日々 ミニー・ヴォートリンの日記』	川田文子
歴史観×メディア＝ウォッチング(7) 産経・読売両紙の墮落と厚顔	高嶋伸欣

第30号(2000年冬季号)【特集＝日独、戦後補償問題の現状】

戦後補償立法運動の現状	朴 在哲
日本の戦争関連記録の情報公開について	荒井信一
禁止されていた重大違反行為被害者の個人請求権放棄 ー1949年ジュネーブ条約が日本軍性奴隷・強制労働問題に与える影響ー	戸塚悦朗
ドイツ「記憶・責任・未来」基金の成立とその歴史的意義	矢野 久
対談 戦争・戦災資料センター建設を期してードレスデン・東京・2000年ー	早乙女勝元・北村 浩
沖縄県立平和資料館の設立	安仁屋政昭
憲法違反・侵略戦争肯定の「あぶない教科書」の実態	俵 義文
戦後中国における日本人戦犯裁判	宋 志勇
歴史観×メディア＝ウォッチング(8) 表紙本をめぐる「つくる会」の悪あがき	高嶋伸欣
資料紹介 俘虜管理部長懇談要旨	高崎隆治
資料紹介 フィリピンにおける日本軍の性暴力 ー『日本占領下フィリピンにおける日本軍性暴力史料集』ー	林 博史

第31号(2001年春季号)【特集＝戦後の日韓、日朝関係を考える】

朝鮮戦争における日本人の参戦問題	大沼久夫
自治体と民間の朝鮮戦争協力動員	山崎静雄
今日から見た日韓会談	吉澤文寿
日朝国交正常化交渉の経緯と現状	北川広和
韓国から見た日本の歴史教科書	鄭在貞
オーストラリアの戦争責任問題とハイダーの生い立ち	増谷英樹
日本帝国政府記録情報公開法について	荒井信一
花岡事件和解の経緯と意義	新美隆
在日元「慰安婦」謝罪・補償請求事件 控訴審判決について	小沢弘子
「慰安婦」問題解決の展望と課題—「女性国際戦犯法廷」を傍聴して	松村由子
平和資料館「草の家」と世界の平和博物館	山根和代
資料紹介 戦争認識をめぐる国会論議 6	吉田裕
歴史観×メディア=ウォッチング (9) 「つくる会」の事実隠しと公取委告発	高嶋伸欣
産経新聞社・扶桑社・「つくる会」による違法行為への排除申告全文	高嶋伸欣・上杉聰

第32号 (2001年夏季号) 【特集=女性国際戦犯法廷／「つくる会」歴史・公民教科書批判】

民衆法廷としての「女性国際戦犯法廷」の意味と成果	松井やより
真実と正義を重ねて—女性国際戦犯法廷傍聴記	田中伸尚
女性国際戦犯法廷が映し／創り出したもの—国際法学の地平	阿部浩己
アジアにおける戦争と賠償と和解について	マーク・セルデン／野崎与志子訳
「醜悪な世紀」にたちむかう人々	早川紀代
「つくる会」歴史教科書の検討と批判	上杉聰
女性蔑視、伝統主義・国家主義の「つくる会」教科書	西野瑠美子
「新しい歴史教科書」の問題点—古代史を中心として	藤田友治
歴史観×メディア=ウォッチング (10) 「つくる会」版教科書の検定合格—自らの存在意義を否定した文部科学省	高嶋伸欣
資料 声明・修正要求等 ・「つくる会」教科書・教科書検定に対する共同アピール ・「つくる会」教科書近現代史部分の誤り・問題点 ・韓国政府発表の中学校歴史教科書修正要求 ・中国政府の教科書問題に関する覚書	
連続ゼミナール 開封されたホロコーストと戦争犯罪	石田勇治
フィリピンにおける性暴力と加害部隊 (上)	上田敏明
中国国民政府の日本戦犯処罰方針の展開 (上)	伊香俊哉
国連人種差別撤廃委員会見聞	遠藤智子

第33号 (2001年秋季号) 【特集=日独における強制連行・強制労働】

戦争責任と戦後補償	松尾章一
中国人強制連行・強制労働についての法律問題	森田太三
強制連行・強制労働の日独比較	矢野久
ドイツの戦時奴隷労働に対する補償	ヘルベルト・キュッパ
「つくる会」の敗北は平和・人権意識の勝利	上杉聰
歴史観×メディア=ウォッチング (11) 「つくる会」本の採択「大惨敗」—さらなる責任追及の必要性	高嶋伸欣
日本の歴史教科書に関する国際研究者アピールについて	野崎与志子 解説・訳
中国人「慰安婦」第1次訴訟 東京地裁判決批判	坂口禎彦
フィリピンにおける性暴力と加害部隊 (下)	上田敏明
中国国民政府の日本戦犯処罰方針の展開 (下)	伊香俊哉
【資料紹介】「慰安婦」援護実例に関する国会審議	池谷好治

第34号 (2001年冬季号) 【特集=日本の敗戦とアジア】

「大東亜共栄圏」からの独立—インドネシアの戦中・戦後と日本	村井吉敬
光復後の楊逵—台湾文学1945~1949年への一考察	丸川哲史
植民地支配から分断国家へ—朝鮮総督府の「8. 15」政策を中心に	李圭泰
ナチス体制下のオーストリアにおける強制労働	金子マーティン
ダーバンへの道、ダーバンからの道—人種差別に反対する世界会議に参加して	前田朗
花岡訴訟「和解」の問題点—日本的戦後処理の再生産	張宏波
ローラバカー法とサンフランシスコ講和条約	荒井信一
「つくる会」教科書の不採択運動と今後の課題	儀義文
韓国における「慰安婦問題解決」運動の位相(上)	山下英愛
【資料紹介】台湾拓殖株式会社「日本軍慰安所」関係資料	解説 林博史

第35号 (2002年春季号) 【特集=「つくる会」教科書問題の今後】

「つくる会」教科書と文部科学省、そして私たちのこれから	上杉聰
「つくる会」教科書をはねかえすのは現場の実践から	藤川伸治
歴史観×メディア=ウォッチング (12) 教科書攻撃の政治的背景と“草の根の民主主義”	高嶋伸欣
教科書問題は終わっていない—歴史歪曲を許さない私たちの課題	儀義文
オーストリアにおける元奴隷・強制労働者の賠償問題	金子マーティン
「共同謀議罪」はなぜ必要とされたか	清水正義
韓国における民間人虐殺事件真相究明の闘い	大畑龍次

韓国における「慰安婦問題解決」運動の位相(下) 次々と公開される戦争関係資料—米国立公文書館資料調査報告	山下英愛 林博史
---	-------------

第36号 (2002年夏季号) 【特集=靖国問題と戦没者追悼】

誰が追悼できるのか—靖国神社と戦没者追悼	原田敬一
小泉首相の靖国参拝の政治過程—「国家と慰霊」に関する序論	波田永実
戦没者の追悼と“平和の礎”	屋嘉比 収
アメリカにおける戦没者追悼—その形態と機構の歴史的考察	吉田 俊
ドイツ戦没者追悼史と靖国国立墓苑問題 (上) 19世紀から第二次世界大戦まで	南 守夫
【連続ゼミナール】 テロ事件・アフガン攻撃と国際法	申 惠丰
【連続ゼミナール】 ホロコースト—記憶のたたかいと形象化	荒井信一
【シンポジウム報告】「歴史認識と東アジアの平和フォーラム」南京会議報告	日本の戦争責任資料センター
南京大虐殺と教科書問題	笠原十九司
教科書問題、村山談話、韓日関係	河 棕文
歴史観×メディア=ウォッチング (13) “有害図書” 扶桑社本と産経新聞への公開質問状	高嶋伸欣
日本軍“慰安婦”・性暴力に関する資料状況	林 博史

第37号 (2002年秋季号) 【特集=戦没者追悼をめぐって】

戦後地域社会における戦死者「追悼」の論理	一ノ瀬俊也
フィリピン戦没日本人慰霊の営みと戦争責任の記憶	中野 聡
小泉首相靖国参拝違憲アジア訴訟の意義	菱木政晴
ドイツ戦没者追悼史と靖国・国立墓苑問題 (中) 第二次大戦後	南 守夫
中国人強制連行・強制労働事件～福岡訴訟判決	松岡 肇
李秀英名誉毀損事件～東京地裁判決	渡辺春己
戦争の惨禍を語りつぎ平和を学ぶ	東京大空襲・戦災資料センター
東京裁判・ブレイクニー弁護人の弁論～「原爆発言」をめぐる誤訳と書き換え	高取 由紀
「三光作戦」実行部隊の内部矛盾と将兵の心情～安新県・中隊長射殺事件～	上羽 修
サンフランシスコ講和と安保～調印から半世紀、アジアの差別的国際構造の歴史	三浦陽一
歴史観×メディア=ウォッチング (14) “有害図書、扶桑社へのさらなる追及と公開質問状	高嶋伸欣
復員局・陸軍軍法会議廃止に関する顛末書	吉田 裕
進展するアメリカの戦争関係資料の公開～米国立公文書館資料調査報告 (2)	林 博史

第38号 (2002年冬季号) 【特集=「慰安婦問題」の10年—その現段階と根本的解決に向けて/情報公開と現代史】

日本軍性奴隷(「従軍慰安婦」)制度研究の現段階	吉見義明
国民基金の「償い事業」とは何だったのか	金 英姫
国際法は日本の国家責任をどこまで認めたか	東澤 靖
「戦時性的強制被害者問題解決促進法案」提出と経過	吉川春子
資料 戦時性的強制被害者問題解決促進法案	
資料 「慰安婦」問題をめぐる国会での論戦(上)	本誌編集部
資料 国立国会図書館法の一部を改正する法律案	
日本の押収文書の行方	グラッド・ブラッドシャー/荒井信一 訳
情報公開法を使いこなす—宮内庁における体験から	瀬畑 源
資料 原爆投下にかんするマジック資料	日本の戦争責任資料センター研究事務局
敗戦時の公文書廃棄についての資料・補遺	林博史
歴史観×メディア=ウォッチング (15) 矛盾点そのままの「つくる会」と拉致問題	高嶋伸欣
資料文献紹介 「奈良武次日記」	伊香俊哉
ドイツ戦没者追悼史と靖国・国立墓苑問題 (下)	南 守夫

第39号 (2003年春季号) 【特集=戦争と疾病】

軍隊と知的障害者	清水 寛
国立療養所箱根病院西病棟の元傷痍軍人	井上 弘
資料紹介 アメリカ軍ならびに日本軍における戦争神経症についてのレポート	日本の戦争責任資料センター研究事務局 翻訳協力 川島めぐみ
朝鮮人強制連行の概念—日弁連勧告から	洪 祥進
資料:「朝鮮人強制連行・強制労働」日弁連・勧告書と人権擁護委員会報告書	
日本における「宗教右翼」の台頭と「つくる会」「日本会議」	上杉 聡
731部隊細菌戦裁判・東京地裁判決の意義と控訴審の課題	一瀬敬一郎
日朝国交正常化とピョンヤン宣言	荒井信一
資料 「慰安婦」問題をめぐる国会での論戦(下)	本誌編集部
アメリカ合州国中学生の記述する「太平洋戦争」	井口博充
歴史観×メディア=ウォッチング (16) 教科書誤記問題で露呈した産経・読売の共同歩調	高嶋伸欣

第40号 (2003年夏季号) 【特集=現代史・戦争責任研究と情報公開法】

アメリカの戦争関係資料調査について	日本の戦争責任資料センター研究事務局
-------------------	--------------------

日本軍の毒ガス戦とアメリカ—アメリカ国立公文書館の資料から	吉見義明
捕虜問題におけるレイシズム	内海愛子
グアムにおける米海軍の戦犯裁判(上)	林 博史
米国国立公文書館の第二次世界大戦期フィリピン関係史料について	中野 聡
資料紹介: 占領軍進駐直後の米兵による強かん事件捜査報告書	日本の戦争責任資料センター研究事務局
情報公開法の施行と歴史史料	吉田 裕
情報公開法のその後—青森県の現状と対策	中園 裕
資料紹介: 日本国の「戦時性的強制被害者問題の解決の促進に関する法律」の制定促進決議	解説・荒井信一
戦後補償訴訟の転機—徐斥期間及び「国家不問責」を適用せず	高木喜孝
民衆法廷は既存システムの補完役から市民社会の本流へ—アフガニスタンと日本、そして世界をつなぐ	清水竹人
日本に滞在するアフガニスタン難民のPTSD所見—拘留による更なる外傷体験	桑山紀彦
ハンセン病患者の沖縄戦(上)	吉川由紀
歴史観×メディア=ウォッチング(17)「つくる会(扶桑社)」本問題と拉致問題を教室で扱う	高嶋伸欣

第41号(2003年秋季号) 【特集=天皇制問題】

ハーバート・ビックス『昭和天皇』の読まれ方	川島高峰
昭和天皇の戦争責任の論じ方をめぐって	安田 浩
マッカーサー軍の対日心理作戦と天皇制	張 會植
資料紹介 アメリカが分析した日本人の天皇観	日本の戦争責任資料センター研究事務局
ドイツ連邦共和国における現代史研究と知る権利(上)	芝 健介
資料紹介 インドネシアにおける日本軍「慰安婦」に関する資料	吉見義明
ハンセン病患者の沖縄戦(下)	吉川由紀
グアムにおける米海軍の戦犯裁判(下)	林 博史
描かれた細菌戦—佐多稲子『若き妻たち』	長瀬春代
歴史観×メディア=ウォッチング(18)歪曲が続く北朝鮮情報	高嶋伸欣
『季刊戦争責任研究』創刊~第40号 総目次	

第42号(2003年冬季号) 【特集=「非人道的」兵器と人権】

非人道的兵器と人権	荒井信一
旧日本軍の遺棄・隠匿した毒ガス兵器による被害と補償	南 典男
アフガンにおけるアメリカの戦争犯罪	前田 朗
沈黙の帳を描き出す—カナダとアメリカによる中国での日本軍の細菌戦の隠蔽	ジョン・ブライス/高山智樹訳
資料紹介: 1973年の「旧軍毒ガス弾等の全国調査結果報告(案)」等について	吉見義明
資料紹介: 記録された最も早い生物戦	日本の戦争責任資料センター研究事務局
資料紹介: 「北(田童)村事件」をおこした日本軍部隊の毒ガス戦報告書	上羽 修
ドイツ連邦共和国における現代史研究と知る権利(下)	芝 健介
教育基本法改悪を強行する布陣をしいた小泉第2次改造内閣	俵 義文
雲南省の「玉碎」地の「慰安所」	金 栄
郭貴勲裁判は何を勝ち取り、どのような課題を残したか	永嶋靖久
歴史観×メディア=ウォッチング(19)産経新聞の暴走と拉致被害者の冷静な発言	高嶋伸欣

第43号(2004年春季号) 【特集=日本軍国主義研究】

「軍国主義」覚書	荒井信一
近代日本の内外政策	瀧 厚
軍隊の国民的基盤を考える	吉田 裕
中国の前線における日本軍兵士の意識	笠原十九司
『つくる会』最近の動向から見る日本の歴史認識	俵 義文
戦時女性に対する暴力への日本司法の対応、その成果と限界	戸塚 悦朗
日本に文書基本法と記録管理院の実現を	小川千代子
オーストリアとホロコースト(上)ウィーンの記念碑から考えるオーストリアの戦争責任	松岡 由季
『平和を希求して』を読んで	川田 文子
『日本軍性暴力被害者』裁判の現状—2003年を振り返って	梁 澄子
オーストラリアの対日戦犯政策の展開(上)	林 博史
歴史観×メディア=ウォッチング(20)事実を報道しない産経新聞と拉致問題への疑問	高嶋伸欣

第44号(2004年夏季号) 【特集=旧日本軍遺棄毒ガス—国内被害問題】

遺棄毒ガスによる国内被害と神栖問題	上杉 聡
神栖町のヒ素汚染と地下水調査	坂巻幸雄
六〇年近く経って顕れた毒ガス兵器被害	川田文子
毒ガス問題と資料公開	吉見義明
【資料紹介】「『戦後における旧日本軍毒ガス弾等の処理の状況(14・6)』」	日本の戦争責任資料センター研究事務局
戦時女性に対する暴力への日本司法の対応、その成果と限界(下)	戸塚 悦朗

『心のノート』と民間教育臨調	鈴木 明
オーストリアとホロコースト (中) 反ユダヤ主義の温床と戦後補償問題	松岡 由季
被爆者援護に関する「国民の要望」	池谷好治
【資料紹介】戦争中の個人補償に関する日本外交文書	日本の戦争責任資料センター研究事務局
オーストラリアの対日戦犯政策の展開 (下)	林 博史
歴史観×メディア=ウォッチング (21) 政治家の大学入試介入阻止と揺れる新聞報道	高嶋伸欣

第45号 (2004年秋季号) 【特集=軍隊と地域—その歴史と現在】

戦争・軍隊史研究とオーラルヒストリー	荒川 章二
米軍と地域／性—占領期の東富士演習場の事例を中心に—	平井 和子
真田山陸軍墓地と大阪	横山 篤夫
自治体史編纂と軍事史研究—15年戦争期の町村兵事書類を中心に	山本 和重
「軍隊と地域」研究の成果と展望—軍事演習を題材に	中野 良
「日帝強制占領下における強制動員被害真相究明特別法」の意義	張 完翼 (翻訳 姜恵禎)
【資料】「日帝強制占領下における強制動員被害真相究明特別法」	
朝鮮人強制連行—その概念と史料から見た実態をめぐって	外村 大
中国人強制連行・強制労働裁判の最近の判決をめぐって	森田 太三
オーストリアとホロコースト (下) 映画に見るオーストリアの犠牲者神話	松岡 由季
【資料紹介】歩兵第224聯隊「冬期山西肅正作戦戦闘詳報」	吉見 義明
【書評】石田米子・内田知行編『黄土の村の性暴力』	川田 文子
歴史観×メディア=ウォッチング (22) 読売・産経の反社会的動きと「つくる会」の“ルール”破り	高嶋伸欣

第46号 (2004年冬季号) 【特集=戦後60年にむけて—真相究明・戦後補償問題の展望】

資料・歴史・政治	鶴飼 哲
歴史認識の政治的利用—歴史事実の公的調査と記録管理をめぐって	川村一之
「慰安婦」問題とアクティブ・ミュージアム運動	西野瑠美子
「中国人強制連行・強制労働補償基金」の内容と実現に向けて	森田太三
朝鮮人強制労働—戦後60年にむけて	谷川 透
南京大虐殺をめぐる動向と課題	鈴木千慧子
731部隊をめぐる調査・研究の現状	近藤昭二
戦後60年とイラク開戦2年 (上) 「憲法」「教育基本法」の改悪と「つくる会」教科書への視点	上杉 聡
日本人の意識映し出す鏡—イラク人質事件—海外メディアは何を伝えたか	西里扶雨子
日華平和条約の裏側—日本占領下フィリピンにおける中国外交官殺害事件の顛末	永井 均
消えない父への憤り	川田 文子
歴史観×メディア=ウォッチング (23) 「つくる会」がつくった文部行政の綻び—天皇の政治的利用も裏目となって	高嶋伸欣

第47号 (2005年春季号) 【特集=慰安婦・性暴力裁判の成果と課題】

「在日元従軍慰安婦」謝罪・補償請求事件裁判の成果と課題—宋神道さんと歩んだ10年	朱 秀子
山西省性暴力被害者裁判と関連する活動—その成果と課題	川口和子・川見公子・石田米子
中国人「慰安婦」訴訟の10年を振り返って	大森典子・安達洋子
日本軍「慰安婦」問題をめぐる国連機関の動き	渡辺美奈
関釜裁判の成果と課題	花房俊雄
オランダ人捕虜・民間抑留者戦後補償訴訟—国際人道法と個人請求権	高木喜孝
「つくる会」教科書はこう変わった!?—新旧「教科書」比較から削除・訂正・無修正箇所を示す	本誌編集部
イラク国際戦犯民衆法廷	稲森幸一
世論からみる「過去の克服」	中山淳雄
職業人のための歴史教育事業—ドイツ・ヴァンゼー会議記念館	東 自由里
日帝末期強制連行犠牲者遺骨問題の本質と課題	鄭 惠瓊 (監修・金 哲秀、訳・李 善伊)
【連載】歴史×メディア=ウォッチング (24) 破綻した文科省の白表紙本公表規制	高嶋伸欣

第48号 (2005年夏季号) 【特集=東アジアのなかの歴史教科書問題】

「つくる会」教科書の問題点と2005年のたたかい	俵 義文
日韓歴史共通教材の到達点と残された課題	君島 和彦
「未来をひらく歴史」作成の経過と論点 (上)	斎藤 一晴
日中関係の現状と認識のギャップ	殷 燕軍
<資料1> 「つくる会」教科書をめぐる文科省・公取委への告発書	上杉 聡 高嶋伸欣
<資料2> 近隣諸国条項についての国会論戦	本誌編集部
<資料3> 盧武鉉韓国大統領の3・1 節記念演説ならびに韓日関係に関する対国民談話	本誌編集部
「平和のための戦争展」の全国的動向	二橋 元長
イラク市民レジスタンス	森 文洋
台湾の阿 (女偏+馬) たちとともに—裁判支援活動を通して	柴 洋子
治安維持法被害者のへの償いの意味と現実	根本 孔衛

【連載】歴史×メディア=ウォッチング(25) 文科省と扶桑社のなれあいのルール違反	高嶋伸欣
---	------

第49号 (2005年秋季号) 【特集=戦後60年】

戦後60年	荒井信一
『日韓保護条約』100年	中塚 明
公開された日韓会談関連外交文書について	吉澤文寿
名前を記す一大阪空襲死没者名簿編纂事業を終えて	佐々木和子
沖縄陸軍病院における青酸カリ配布の実態	古賀徳子
「強制動員真相究明ネットワーク」の設立にあたって	福留範昭
戦時動員(強制連行)された朝鮮人とその遺族の戦後	山田昭次
『未来をひらく歴史』作成の経過と論点(下)	齋藤一晴
自治体における無防備地域宣言	前田 朗
資料紹介 沖縄一キャンプ・コザに収容されていた朝鮮人「慰安婦」の写真	センター研究事務局
【連載】歴史×メディア=ウォッチング(26) 政官民癒着体制での採択「惨敗」—証明された草の根民主主義の健在ぶり	高嶋伸欣

第50号 (2005年冬季号) 【特集=靖国神社と追悼】

靖国訴訟の射程	田中伸尚
遺族に沈黙を強いる靖国	内海 愛子
ナショナリズムと靖国	吉田 裕
アジア・太平洋戦争再論	木坂順一郎
ドイツの「戦後60年」	木戸衛一
抗日戦時期の重慶大爆撃の損失および遺留問題	潘洵・彭興華(訳・老田裕美)
空襲・戦災記録運動と空襲研究の動向	今井清一
小泉第三次改造内閣を斬る	俵 義文
「つくる会」との闘い2005年—成果と課題、そしてこれから	上杉 聰
世界は市民の手に—イラク国際戦犯民衆法廷を通じて	猿田 佐世
<資料紹介>報道された無数の「100人斬り」	編・解説 小野 賢二
【連載】歴史×メディア=ウォッチング(27)早くも表面化した「惨敗」の後遺症—「つくる会」の土台を崩す構造改革を	高嶋伸欣

第51号 (2006年春季号) 【特集=朝鮮人強制連行・強制労働問題】

強制動員真相究明ネットワークの課題	飛田雄一
「紀元二千六百年祝典」と朝鮮人建国奉仕隊	川瀬俊治
朝鮮人強制連行方法とその強制性	守屋敬彦
朝鮮人強制労働全国一覧表を作成して	竹内康人
麻生系炭坑の朝鮮人労働者	横川輝雄
土の中からの告発—北海道における強制連行犠牲者と遺骨問題	殿平善彦
朝鮮人徴用動員と動員体制—1944年を中心に	樋口雄一
東北アジアの歴史教科書協力が持つ意味	辛 珠柏
慟哭の航路—日本軍「慰安婦」を運んだ陸軍徴傭船	平尾弘子
戦後60年と歴史博物館・平和博物館の戦争展示	山辺昌彦
小泉首相靖国参拝違憲台湾関係第二次訴訟高裁判決がもたらしたもの	菱木政晴
昭和天皇記念館は裕仁の何を映すか?—基地の町・立川から	井上 森

第52号 (2006年夏季号) 【特集=戦争と障害者】

戦傷精神障碍元兵士の戦後史(上)	清水寛
沈黙の声 沖縄戦の精神障害者	謝花直見
聞き書き 沖縄戦を生き抜いたろう者	加藤健
ドイツ軍と性暴力	小野寺拓也
「つくる会」内紛の背景と今後	上杉 聰
『華北労働問題概説』に見る中国人強制連行前史	守屋敬彦
【資料紹介】沖縄戦についての日本軍資料	林 博史
【連載】歴史観×メディア=ウォッチング28 事実歪曲の俗説たれ流しと是正の取り組み	高嶋伸欣
『季刊戦争責任研究』総目次 創刊号~第50号	

第53号 (2006年秋季号) 【特集=空襲を問う】

空襲の世紀の法理と日本	荒井信一
東京大空襲と朝鮮人	李 一満
東京空襲遺族会の集団訴訟	星野ひろし
重慶大爆撃訴訟の提訴の経緯と今後の課題	一瀬敬一郎
戦傷精神障碍元兵士の戦後史(下)	清水 寛
韓国映画が映す日常と純愛と歴史	金 惠信
【資料紹介】韓国側文書に見る日韓国交正常化交渉 1請求権問題(上)	翻訳・解説 李洋秀
歴史観×メディア=ウォッチング29 小泉首相の大失態と教基法改訂論議	高嶋伸欣
【資料紹介】日中戦争期における日本軍人の自殺についての憲兵隊報告	本誌編集部

第54号 (2006年冬季号) 【特集=靖国と天皇】

天皇制と靖国	吉田 裕
--------	------

韓国から見た靖国問題	南 相九
追悼の政治学	上杉 聡
第二次大戦の激戦地とホロコーストの現場で	井上茂子
国民の歴史と帝国の記憶—現代フランスにおける植民地支配の過去—	松沼美穂
アメリカ下院の「慰安婦」決議と日本政府の妨害活動	荒井信一
自民党新憲法草案の「軍事条項」—明治憲法・ドイツ基本法と比較する	網屋喜行
情報公開法と宮内庁資料—不服審査の結果を中心に—	佐藤宏治
朝鮮人強制動員犠牲者の遺族の声を聴く—韓国・朝鮮の遺族とともに—遺骨問題の解決へ 2006年夏—	福留範昭
軍需省燃料局長通牒と中国人強制労働企業の獲得国庫補助	守屋敬彦
資料紹介 韓国側文書に見る日韓国交正常化交渉 2 請求権問題(下)	翻訳・解説 李洋秀
【資料紹介】 鉄血勤皇隊編成に関する日本軍と沖縄県の覚書ならびに軍命令	林 博史
歴史観×メディア=ウォッチング30 欠落している構造的に歴史に学ぶ姿勢	高嶋伸欣

第55号(2007年春季号) 【特集=朝鮮人強制連行】

朝鮮人強制連行真相究明の課題	福留範昭
朝鮮人被強制連行死亡者の遺骨・遺族扶助手	守屋敬彦
1945年4月以降の日本への朝鮮人強制連行	塚崎昌之
アジア太平洋戦争末期朝鮮における勤労援護事業	外村 大
日帝強占下強制動員被害真相究明委員会の調査を通して見た労務動員	鄭 惠瓊 (訳福留範昭)
「強制連行」と「拉致」の概念をめぐって	上杉 聡
中国側から見た日本軍の戦争犯罪	笠原十九司
ドイツ人の「過去の克服」の旅	井上茂子
「傷痍軍人」をめぐる研究状況と現在	植野真澄
【資料紹介】 台湾における台湾外への戦時労務動員	樋口雄一
【資料紹介】 韓国側文書に見る日韓国交正常化交渉 3 在日韓国人の国籍	翻訳・解説 李洋秀
【連載】歴史観×メディア=ウォッチング31 事実歪曲をくり返すメディア界の厚顔無恥体質	高嶋伸欣

第56号(2007年夏季号) 【特集=「慰安婦」問題の最前線】

米下院「慰安婦」決議案と河野談話	吉見義明
【資料紹介】戦犯として裁かれた慰安所経営者—インドネシア・「櫻俱樂部事件」判決文から	内海愛子(解説)、村岡崇光(監訳)、梶村太一郎(協力)
【資料紹介】東京裁判で裁かれた日本軍「慰安婦」制度	日本の戦争責任資料センター研究事務局
【資料紹介】日本の裁判書が認定した日本軍「慰安婦」の被害事実(上)	坪川宏子
2006年における戦後補償裁判の現況	高木喜孝
拒否された「シベリア抑留補償」	江口十四一
皇室典範の改正をめぐって	上杉聡
『男たちの大和』をめぐって	佐藤宏治
特攻隊員とされた朝鮮人	野木香里、ベ・ヨンミ
【資料紹介】東京裁判における東条尋問の裏面	佐治暁人
【連載】歴史観×メディア=ウォッチング32 「進歩的」文化人の事実認識と歴史歪曲の危険性	高嶋伸欣

第57号(2007年秋季号) 【特集=「慰安婦」決議と歴史認識問題】

米議会下院の「慰安婦」決議	荒井信一
米国平和研究所シンポジウム	吉田 俊
【資料紹介】日本の裁判書が認定した日本軍「慰安婦」の被害事実(下)	坪川宏子
【資料】日本軍「慰安婦」問題についての米下院決議/提言 日本軍「慰安婦」問題における謝罪には何が必要か	
捕虜問題をめぐる日英「和解」の断層(上)	中尾知代
朝鮮農業再編製と戦時下労働動員	樋口雄一
宋神道さんのたたかいを振りかえる—記録DVD「オレの心は負けていない」完成を機に	川田文子
「靖国合祀」の仕組みとは?	西里扶爾子
【資料紹介】戦犯の靖国神社合祀	日本の戦争責任資料センター研究事務局
【資料紹介】韓国側文書に見る日韓国交正常化交渉 4 大村収容所、北朝鮮帰還事業、そして個人請求権	翻訳・解説 李洋秀

第58号(2007年冬季号) 【特集=南京事件と日本社会】

史料発掘 南京虐殺の現場と写真	解説 笠原十九司
東京裁判で証言された南京レイプ	川田文子
日本政府はなぜ南京事件否定論に立とうとするのか	笠原十九司
南京国際九歳委員会に派遣された日本人・安村三郎	渡辺久志
南京事件否定論とその受容の構造	山北 宏/能川元一
いま、埼玉県平和資料館で何が起きているか	二橋元長
政治家・メディアと南京事件	儀義文
日中共同声明5項の解釈を誤った4・27最高裁判決を批判する	菅 建強
空襲の歴史を見直す	荒井信一

捕虜問題をめぐる日英「和解」の断層(中)	中尾知代
歴史観×メディア=ウォッチング 33『朝日』の失われた20年—コタバルと真珠湾「ほぼ同時」説批判	高嶋伸欣
【資料紹介】 嶋田繁太郎大将備忘録—日中戦争における日本海軍	宇田川幸大

第59号(2008年春季号)【特集=ジェノサイド】

比較ジェノサイド研究の課題と射程	石田勇治
ルワンダのジェノサイドを引き起こしたもの—歴史・国際関係・国家	武内進一
スレブレニツァ・ジェノサイドを検証する	長 有紀枝
「文化ジェノサイド」としての植民地支配—日本による朝鮮支配を例に	松村由子
国際刑事裁判所の創設とその可能性	福永美和子
フランコと再び向き合うスペイン社会—「歴史的記憶の法」成立をめぐる	飯島みどり
空襲認識をめぐる諸問題—ドイツ・ドレスデンを例に	柳原伸洋
Aサイン制度のポリティクス—軍事占領期沖縄より	菊池夏野
戦後8月15日付社説における加害責任の論説分析(上)	根津朝彦
捕虜問題をめぐる日英「和解」の断層(下)—「和解成功」言説とは何だったのか	中尾知代
連載 歴史観×メディア=ウォッチング 34「産経」の米兵犯罪被害者批判の不当性	高嶋伸欣

第60号(2008年夏季号)【特集=沖縄戦を考える】

「集団自決」問題を考える視点	林 博史
資料紹介 沖縄戦における軍官民一体化—軍官民合同警備演習資料	地主園 亮
沖縄県民の疎開と対馬丸撃沈事件	吉川由紀
体験者の語りからみる座間味島の戦争	内山 唱
沖縄戦における日本軍「慰安婦」制度の展開(1)	古賀徳子
「生活改善」から「生活更新」へ—1930年代の沖縄出身者による生活改善運動(上)	納富香織
大江・岩波裁判の一審判決報告	外間明美
韓国の「強制動員犠牲者支援法」について	福留範昭
戦後8月15日付社説における加害責任の論説分析(下)	根津朝彦
愛国心学習指導要領で教科書はどうか	儀義文
歴史に挑む国際連帯—日本軍性奴隷制をめぐる議論動向	前田朗
【資料】日本軍「慰安婦」問題についての決議(欧州議会、オランダ、カナダ)	訳 安原桂子
連載 歴史観×メディア=ウォッチング 35沖縄教科書検定で窮地の文科省と斬り込みがないマスコミ	高嶋伸欣
本誌前号掲載論文への追記	飯島みどり

第61号(2008年秋季号)【特集=侵略戦争と弾圧の犠牲者たち】

こころざしつたふれし少女—伊藤千代子	藤田廣登
戦時下「支那渡航婦女」の記	平尾弘子
アジア太平洋戦争とハンセン病	藤野 豊
資料紹介 東京裁判と性暴力	戦争裁判と性暴力・資料編集委員会
神奈川県特高警察の暴走	荻野富士夫
沖縄戦における日本軍「慰安婦」制度の展開(2)	古賀徳子
「生活改善」から「生活更新」へ—1930年代の沖縄出身者による生活改善運動(下)	納富香織
「和解」論批判	早尾貴紀
資料紹介 大本営陸軍部「従軍兵士の心得」	松野誠也
[連載] 歴史観×メディア=ウォッチング 36 強硬路線の文科省官僚らに見くびられ続ける大手メディアの醜態	高嶋伸欣

第62号(2008年冬季号)【特集=沖縄戦と日本軍「慰安婦」/日本軍「慰安婦」問題の解決にむけて】

一九四五年三月~八月 渡嘉敷島で起こったこと	川田文子
「慰安婦」をみた人々—宮古島「慰安婦」祈念碑の建立まで	洪 ユンシン
沖縄戦における日本軍「慰安婦」制度の展開(3)	古賀徳子
「慰安婦」問題をめぐる世界の動き	渡辺美奈
立法による解決をめざして	戸塚悦朗
60号をこえた『戦争責任研究』	荒井信一
太平洋戦争下の東京の障がい者教育状況(上)	清水 寛
[連載] 歴史観×メディア=ウォッチング 37二度の「大江・岩波裁判」敗訴判決で明確化した検定の不当性を徹底追及しないジャーナリズム	高嶋伸欣
『季刊戦争責任研究』第1~第60号 総目次・執筆者索引	

第63号(2009年春季号)【特集=世界の植民地問題の再検証】

ホンデルヴァルト空襲覚書—1920年代南部アフリカ植民地の小戦争	永原陽子
イギリス植民地主義のあとさき—2001年ダーバン会議の教訓	前川一郎
エチオピアの民衆反乱に対するイギリス軍の空爆—1943年ティグライの事例	眞城百華
義和団戦争におけるドイツ軍の「懲罰遠征」—山東省高密県の事例から	浅田進史
記憶をめぐる内戦—戦争芸術における日本の責任の問題	荒木國臣
太平洋戦争下の東京の障がい者教育の状況(下)	清水寛

沖縄戦における日本軍「慰安婦」制度の展開（４）	古賀徳子
〔資料紹介〕公文書・天皇関係書類の廃棄と「慰安婦」隠し—日本軍電報の暗号解読資料	林 博史
〔連載〕歴史観×メディア＝ウォッチング 38 悪化一途の「産経」報道ぶり	高嶋伸欣

第64号（2009年夏季号） 【特集＝中国人戦争犠牲者を支える取り組み】

中国人強制連行・強制労働事件全面解決への展望	永村誠朗
中国人戦争被害者が国と企業を訴えた裁判の現状と支援の動き	大谷猛夫
中国海南島における戦時性暴力被害と裁判及びその支援について	金子美晴
日本軍「慰安婦」問題について—「ワシントンポスト」の「事実」広告を批判する	吉見義明
ナウルでのハンセン病患者の集団虐殺事件（上）	林博史
南洋群島への朝鮮人の戦時労働動員—南洋群島経済の戦時化からみる一側面	今泉裕美子
戦後責任との向き合い方—第7回「歴史認識と東アジアフォーラム」参加記	本庄十喜
空襲情報と疎開—膨大な犠牲者を出したのは何故か	黒田康弘
竹島・独島は日本の教科書にどう書かれているか	俵義文
歴史観×メディア＝ウォッチング 39 「新編新しい歴史教科書」で浮上した「つくる会」・自由社と文部科学省・公正取引委員会の責任問題	高嶋伸欣

第65号（2009年秋季号） 【特集＝自衛隊と歴史認識】

田母神問題の政治的背景—田母神虚言の背景と系譜	俵 義文
自衛隊とシベリアン・コントロール—「田母神問題」を手がかりに	飯島滋明
女性自衛官人権裁判を通じて見えてきた自衛隊	佐藤博文
自衛隊改編課程における文民統制の現段階—進行する軍政・軍令の分離問題を中心に	瀨 厚
日本における戦争博物館の復活（１）戦争博物館の復活状況の概観	南 守夫
日本の原爆開発と植民地資源収奪	任 正嬭（イム ジョンヒョク）
「相手国国民の権利および訴権の消滅、停止」と国際人道法—「サンフランシスコ平和条約の枠組み」批判	荒井信一
毒ガス裁判と毒ガス被害者を支える人々の系譜	長谷川順一
<資料紹介>独立砲兵第三連隊「高森部隊特殊慰安業務規定」	松野誠也
ナウルでのハンセン病患者の集団虐殺事件（下）	林博史
歴史観×メディア＝ウォッチング 40 自由社本採択の横浜市と「つくる会」の暴走を止められない公取委・文科省の責任	高嶋伸欣

第66号（2009年冬季号） 【特集＝韓国併合100年 植民地支配を問い直す】

韓国併合100年をどうとらえるか	荒井信一
宗主国と植民地における「臣民」とジェンダー —兵役義務・参政権・義務教育制	金 富子
日韓国交正常化と残された課題	吉澤文寿
韓国における過去事清算と歴史研究	河 棕文
<資料構成> 戦争体験記・部隊史にみる日本軍「慰安婦」（１）	本資料センター
日本軍「慰安婦」・性暴力に関する、国会図書館文献調査の報告	本資料センター研究事務局
国民基金ではなぜ解決できなかったのか—立法問題を中心に	戸塚悦郎
<資料紹介> 15年戦争期・台湾の接客業—「台湾日日新報」の記事より	藤永 壮
<資料紹介> 陸軍軍需品廠／陸軍衛生材料廠「星秘膏」	松野誠也
東アジアの戦後和解は何に躓いてきたか？	石田 隆 ・ 張 宏波
歴史観×メディア＝ウォッチング 41 自公政権同様に検定制度虚偽答弁をする川端文科大臣と黙認の文科省記者クラブ	高嶋伸欣

第67号（2010年春季号） 【特集＝なぜ今、韓国併合が問題になるのか】

「韓国併合」100年に重ねて、なぜNHKが「坂の上の雲」なのか	中塚 明
1910年、韓日条約に関する法史的再検討	金昌祿
朝鮮・軍事占領下の性管理政策—外務省警察を中心に	宋 蓮玉
過去事問題の認識と責任論	金 敏喆／福留範昭
<資料構成> 戦争体験記・部隊史にみる日本軍「慰安婦」（２）	本資料センター
別格官幣社・靖国神社の合祀者詮衡（上）	秋山郁子
グアムにおけるアメリカ政府への戦後補償要求—1970年代～1990年代初頭のパトリオティズムとの関わりを中心に	長島怜央
台湾人・朝鮮人戦没者慰霊碑に見るアンビバレンス（上）	池谷好治
日本における戦争博物館の復活（２）自衛隊関係戦争博物館問題（上）—加害の隠蔽・南京と重慶	南 守夫
歴史観×メディア＝ウォッチング 42 外国人参政権反対派が露呈させた歴史教科書問題と共通の政治的思惑	高嶋伸欣

第68号（2010年夏季号） 【特集＝歴史の事実と認識をめぐるたたかい】

北海道・浅茅野飛行場強制労働の韓国・朝鮮人骨遺骨問題—その法学的課題	吉田邦彦
朝鮮人関係追悼碑の調査 付表1 朝鮮人関係追悼碑一覧 付表2 連行期朝鮮人死亡者名簿・沖縄分	竹内康人
横浜の教科書採択と問題点	佐藤満喜子
日本軍「慰安婦」問題についての関西の取り組みと「行動する保守」とのたたかい	井上淳
「戦争と女性の人権博物館」建設の現状	梁 澄子

<資料紹介> 国民を戦闘に参加させるためのマニュアル—大本営陸軍部「国民抗戦必携」	林博史
別格官幣社・靖国神社の合記者詮衡（下）	秋山郁子
台湾人・朝鮮人戦没者慰霊碑に見るアンビバレンス（中）	池谷好治
<資料構成> 戦争体験記・部隊史にみる日本軍「慰安婦」（3）	本資料センター
歴史観×メディア＝ウォッチング 43 「つくる会」自由社版歴史教科書供給本（生徒用）に残る多数の誤記から、関係者の責任を衝く	高嶋伸欣

第69号（2010年秋季号） 【特集＝日本の軍隊と戦後処理の諸相】

帝国軍隊と保護兵	藤野 豊
「戦後強制抑留者特別措置法」（シベリア特措法）制定の経過と今後の課題	有光 健
戦争賠償請求の訴求権能喪失を前提とする西松建設信濃川「和解」について	康 健
全文掲載 菅直談話と国内「慰安婦」決議—その意義について	解説・上杉聡
「御真影」たちの沖縄戦（上）御真影奉護壕からみえる戦前教育の末路	川満 彰
<資料文献紹介> ロベルト・ゾマー著「強制収容所売春棟」	菅野麻衣子
台湾人・朝鮮人戦没者慰霊碑に見るアンビバレンス（下）ポスト植民地問題としての靖国問題	池谷好治
日本における戦争博物館の復活（3） 自衛隊関係戦争博物館問題（下）90年代以降の自衛隊の社会進出	南守夫
歴史観×メディア＝ウォッチング 44 首相談話批判で大口を叩く保守派論壇人の致命的古傷を不問のマスコミ	高嶋伸欣

第70号（2010年冬季号） 【特集＝戦争責任問題の解決を“抑止”しているものは何か】

戦後日本の戦争責任認識—占領期を中心に	古関 彰一
米軍基地と植民地主義	林 博史
日本の戦争責任「免責」の歴史構造—戦後日中関係の視点から	笠原 十九司
<資料構成> 戦争体験記・部隊史にみる日本軍「慰安婦」（4）	本資料センター
朝鮮人強制動員における労務（国民）動員計画と地方行政	庵谷 由香
西松広島安野和解の現在	内田 雅敏
中国人強制連行・強制労働事件と西松建設信濃川和解について	松岡 肇
戦争神経症と戦争責任—第一次世界大戦期及び戦間期英国を事例として	高林陽展
東アジア歴史・人権・平和宣言のために	前田 朗
「御真影」たちの沖縄戦（下）御真影奉護壕からみえる戦前教育の末路	川満 彰
歴史観×メディア＝ウォッチング 45 市民主権者が展開する日田社歴史教科書への追及	高嶋伸欣

第71号（2011年春季号） 【特集＝現在の紛争と性暴力／小特集 「慰安婦」問題関係資料】

旧ユーゴスラビア紛争と女性に対する暴力—国際刑事法廷はどう裁いたか	江口昌樹
ネパールの紛争と性暴力—沈黙を破り正義を求める女性たち	田中雅子
クメール・ルージュ時代の女性に対する暴力	中川香須美
グアテマラにおける紛争と性暴力	新川志保子
東チモールにおける紛争と性暴力—責任追及と被害者の救済	ステファニー・ケーブ
<資料構成> 戦争体験記・部隊史にみる日本軍「慰安婦」（5）終 一日本軍「慰安婦」・性暴力に関する国会図書館文献調査報告—	本資料センター
<資料紹介> 総力戦体制下の北海道における炭鉱・鉱山「慰安所」	金優綺
中国人元「慰安婦」被害事実調査	康 健
<資料紹介> 「南支南洋情報」にみる慰安所・公娼	小西将太
日弁連と大韓弁護士協会の日本軍「慰安婦」問題などについて宣言と提言	川上詩朗
東アジア歴史・人権・平和宣言 連続インタビュー講座（1）「文明と野蛮」を越えて—日本植民地主義を徹底解剖するために	徐 勝・前田朗
中国人強制連行・強制労働の「和解」案に関する考察	康 健
歴史観×メディア＝ウォッチング 46 渡部昇一氏にすがる「つくる会」の末期症状／藤岡信勝氏よどこへ行く？	高嶋伸欣

第72号（2011年夏季号） 【特集＝略奪文化財返還問題】

日韓会談と文化財返還問題	李 洋秀
朝鮮文化財略奪の舞台—韓国・江華島	荒井信一
日本側からみた流出文化財の問題点と解決への課題	韓国・朝鮮文化財返還問題連絡会議
日本の侵略戦争にともなう文化財被害とその返還について	森本和男
公文書管理法の施行とアーカイブズ	川村一之
米軍接収資料の返還と七三一—細菌戦資料の行方（上）	近藤昭二
自由社版・育鵬社版教科書の採択阻止のために	俵 義文
東アジア歴史・人権・平和宣言 連続インタビュー講座（2）ダーバン宣言って何だ？—植民地主義と人種差別の歴史的責任を問う	上村英明・前田朗
加害の語りと戦後日本社会（1）	
「洗脳」言説を越えて加害認識を伝える—戦犯作家・平野零児の語りを通じて	石田隆至・張 宏波
日本における戦争博物館の復活（4）「科学・技術」の名による戦争博物館（上）所沢航空発祥記念館を中心に	南 守夫
歴史観×メディア＝ウォッチング47 違法性が恒常化している「つくる会」系組織とその支援構造の責任を衝く	高嶋伸欣

第73号（2011年秋季号） 【特集＝原爆投下と被爆者】

「原爆投下命令の責任」について	荒井信一
原爆と連合軍捕虜	福林 徹
3・1から3・11を考える	丸浜江里子
朝鮮半島出身の原爆被害者に対する日本の戦争責任	市場淳子
資料紹介 原爆投下と戦争犯罪追及	林 博史
日本軍「慰安婦」・性暴力に関する国会図書館文献第二次調査の報告	資料センター研究事務局
加害の語りと戦後日本社会(2)「棄兵」たちの戦後史(上)「認罪」経験の二つの捉え方	石田隆至・張 宏波
韓国シベリア朔風会からの菅首相宛要望書	
日本における戦争博物館の復活(5)「科学・技術」の名による戦争博物館(下)大和ミュージアムを中心に	南 守夫
歴史観×メディア=ウォッチング48 2011年度教科書採択を総括する—その1—	高嶋伸欣

第74号(2011年冬季号) 【特集=「慰安婦」・軍隊と性暴力の最新の研究を読む/原爆投下と被爆者】

『黄土の村の性暴力—大娘たちの戦争は終わらない』—共振する丁玲の小説と	江上 幸子
在日米軍基地における「軍隊と性暴力」の共生関係—藤目ゆき『女性史からみた岩国米軍基地—広島湾の軍事化と性暴力』を手がかりに	平井 和子
「不処罰」による国家責任を問う—日本軍「慰安婦」問題と米兵による性犯罪	宮城 晴美
極私的読後感『近代日本社会と公娼制度—民衆史と国際関係史の視点から』	川田 文子
宋連玉・金栄編『軍隊と性暴力』をめぐる断章	吉見 義明
広島・長崎と戦争責任—原水爆禁止運動以前の動向	宇吹 暁
長崎被爆者運動と戦災者組織	小林奈緒子
3・11後の戦後責任論	高橋 哲哉
平和への権利国連宣言をめざして—NGOの国際連帯活動	前田 朗
2011年中学教科書採択の結果と私たちの課題	俵 義文
歴史観×メディア=ウォッチング49 2011年度教科書採択を総括する—その2—	高嶋伸欣

第75号(2012年春季号) 【特集=「慰安婦」・軍隊と性暴力の最新の研究を読む(2)】

『20年目の水曜日』	川田文子
「植民地公娼制度」・女性の家族外就労と「慰安婦」問題—早川紀代『戦争・暴力と女性3 植民地と戦争責任』から	小野沢あかね
『ナショナリズムの狭間から』を読んで	上杉聰
フェミニズムの射程—宋連玉『脱帝国のフェミニズムを求めて 朝鮮女性と植民地主義』をよむ	早川紀代
「極東国際軍事裁判記念館」設立について	春日恒男
新聞の戦後責任 一般戦災者援護に関する論調の軌跡(上)	池谷好治
「戦時性的強制」被害者、韓国憲法裁判所で勝訴—2011年8月30日決定の意義と日韓関係の未来	戸塚悦郎
米軍接收資料の返還と731・細菌戦資料の行方(下)	近藤昭二
新たな段階を迎えた細菌戦研究—「金子順一論文」が明かす「ホ号作戦」の実相<資料紹介>タバオ、バリックパパン海軍航空基地 第二設営班慰安所の資料	波多野澄雄 藤原義一
加害の語りと戦後日本社会(3)「棄兵」たちの戦後史(下)「加害者」である「被害者」として	石田隆至・張宏波
歴史観×メディア=ウォッチング50 2011年度教科書採択結果を総括する—その3—「横浜住民方式」の効果と八重山問題	高嶋伸欣

第76号(2012年夏季号) 【特集=靖国神社問題】

1950年代の靖国神社 遺児参拝の実像を探る	松岡 勲
「大東亜聖戦大碑」と死者の尊厳	田村 光彰
大詰めを迎える靖国神社合祀取り消し訴訟	菱木 政晴
ビルマ・カラゴン村事件とその取り組み	岩根承成・碓井哲郎
鄭鎮星著「日本軍の性奴隷制」を読む	藤永 壮
[参加記]日韓合同基地村のワークショップ—東アジア米軍基地問題と女性の人権シンポジウム編	李 定恩
米軍基地ツアー編	田崎真奈美
新聞の戦後責任 一般戦災者援護に関する論調の軌跡(下)	池谷好治
ヨーロッパにおけるドイツの戦争犯罪・ナチ犯罪の処罰の概観(上)	ノルベルト・フライ 福永美和子訳
加害の語りと戦後日本社会(4) 戦争を推進した社会の転換にむけて(上) 山陰支部における「相互援助」を中心に	石田隆至・張宏波
【連載】歴史観×メディア=ウォッチング 51 保守派による山川出版「詳説日本史B」批判の危険性を衝く	高嶋伸欣

第77号(2012年秋季号) 【特集=戦争とメディア】

エドワード・ハンターへの平頂山事件報道とその影響	井上久士
太田川水系の水力発電所建設工事と朝鮮人	内海隆男
新聞特派員の日清戦争報道—京都「日出新聞」特派員・堀江松華の記事をめぐる	松村啓一
ジェンダー視点からの基地撤廃グローバル・ネットワーク	秋林こずえ
米軍資料に見る米軍の性売買政策と性暴力	林 博史
ラウゲデ事件判決①	高橋茂人

慰安婦・軍隊と性暴力の最新の研究を読む 西野留美子・金富子責任編集『証言 未来への記憶 アジア「慰安婦」 証言集南・北・在日コリア編』Ⅰ・Ⅱを読む	木下直子
日本軍「慰安婦」関係資料調査の成果 『資料集 日本軍にみる性管理と性暴力—フィリピン』『東京裁判—性暴力関係資料』『「慰安婦」強制連行』	林 博史
[資料構成] 戦争体験記・部隊史にみる日本軍「慰安婦」第二次国会図書館調査(1)	日本の戦争責任資料センター
ヨーロッパにおけるドイツの戦争犯罪・ナチ犯罪の処罰の概観(下)	ノルベルト・フライ 福永美和子訳
[連載] 歴史観×メディア=ウォッチング 52 東京都・横浜市の両教育委員会による教科書採択妨害行為の違法性を衝く	高嶋伸欣

第78号(2012年冬季号) 【特集=スガモ】

スガモプリズン—占領下の「異空間」	内海愛子
スガモの平和運動と塙の外のまなざし	本庄十喜
戦犯の「戦後」—戦犯の戦争責任観・戦争観・戦後社会観	宇田川幸大
スガモプリズンにおいて「植民地責任」を問うこと—米軍管理期の朝鮮人仮出所者の記録にみる意識と行動	岡野泰平
<資料紹介> 白蓮社と戦犯問題	佐治暁人
シベリア抑留の法的・道義的責任—国際法と人道の視点から	富田 武
日本軍「慰安婦」問題に関する日韓交渉・仲裁を前進させるための日韓両政府に対する勧告	日本の戦争責任資料センター
加害の語りと戦後日本社会(5) 戦争を推進した社会の転換へむけて(下)「相互援助」が可能にした「加害証言」	石田隆至・張宏波
[連載] 歴史観×メディア=ウォッチング 53 安倍自民党による教科書制度改悪に備える—先取りとしての横浜市教委問題の現状	高嶋伸欣

第79号(2013年春季号) 【特集=「慰安婦」問題解決への提言/在日と戦後処理】

日本の条約義務不履行を是正する国際行動の可能性	ティナ・ドルゴボル/訳・岡田泰平
「慰安婦」問題の解決と国際法手続き—地域の平和と信頼関係の醸成のために	戸塚悦朗
日本軍「慰安婦」問題、今何をなすべきか	金 昌祿
関東大震災時の朝鮮人虐殺の歴史的・思想的意味	山田昭次
戦後日本のなかの外国人学校	朴 三石
差別煽動国家における在日朝鮮人(上) 国際人権法から見た日本	前田 朗
自治体と国籍条項	大石文雄
陸軍中野学校と沖縄戦(上)	川満 彰
【資料紹介】第三軍(沖縄)臨時軍法会議に関する資料	林 博史
【資料紹介】ラウゲテ事件判決②	訳・高橋茂人
【連載】歴史観×メディア=ウォッチング 54 お気に入りで固めた安倍政権で早くも露呈した脇の甘さを衝く	高嶋伸欣

第80号(2013年夏季号) 【特集=在日と戦後処理②】

在日の戦後補償問題	田中 宏
日本の戦後体制と在日朝鮮人—参政権の「停止」と日本国憲法の制定過程をめぐって	水野直樹
差別煽動国家における在日朝鮮人(下) —国際人権法からみた日本	前田 朗
韓民族被強制連行者は賞金をもらっていなかった	守屋敬彦
日韓請求権協定・仲裁への道—国際法の隘路をたどる	阿部浩己
陸軍中野学校と沖縄戦(下)	川満 彰
【資料紹介】戦争体験記・部隊史にみる日本軍「慰安婦」第二次②(終)	日本の戦争責任資料センター
【資料紹介】第三五師団司令部「営外施設規定」	吉見義明
【資料紹介】占領下沖縄における米兵による性犯罪	林 博史
【連載】歴史観×メディア=ウォッチング 76 橋下発言の下地を作った安倍首相の歴史認識 —墮ちるところまで墮ちた「お気に入り政権」の倫理観	高嶋伸欣
日本軍「慰安婦」問題に関する声明	日本の戦争責任資料センター